タイトル　『初心』　有江勝利

●「初心忘るべからず」

室町時代の能楽師、世阿弥の言葉です。初めの頃の謙虚で真剣な気持ちを持ち続けなさい。この言葉には「是非の初心」「時々の初心」「老後の初心」と３つの初心を忘れてはならないと続きます。これは壮年、中年、初老と歳を重ねていく中、いつの時も慢心することなく、さらなる成長に向け学び続けなさい、というのは端的な私の解釈です。

さて、私自身現在のステージではどんな成長を志すべきなのでしょうか。中年から初老に向かうタイミングです。まだまだ組織の中で自らを磨き事業推進者として成長を描くのか、経験を活かした社会還元の成長を描くのか、それとも人材育成、後輩の成長に注力するべきなのでしょうか。金を残すは三流、仕事を残すは二流、人を残すは一流、後藤新平さんの言葉です。

私は今後の参考にならないか「初心」を再考するべく、世阿弥が記した「風姿花伝」を読んでみることにしました。書店で「風姿花伝」を在庫検索機に入力すると沢山の同書名を冠した一覧が表示されます。「わかりやすい現代語訳」「画期的訳注書」等それぞれ内容は同じようですが、面白いことに分類・配列されているコーナーは「古典芸能」「学術文庫」「経営思想」等いろいろあります。ネット上には「企業家としての世阿弥」「「風姿花伝」を人材育成の観点から読み解く」等いろんなテーマでの記事があり、私の関心度合いは益々高まります。

●「風姿花伝」

世阿弥の記した「風姿花伝」は学び続けること、成長のために努力を続けること、そしてその成長には終わりはないこと、さらにその成長は人々を幸福にすることを実現するためのものであること、その指南書として執筆されています。内容的には年代に応じた教育指針、ケースにもとづいた対応策等いずれも能楽をテーマにしたものではありますが、私の携わっているＩＴの業界や、会社組織に置き換えて読むことで参考にもなりそうです。

最初の章は「年来稽古条々」です。能楽に携わる人間の道のりを年齢に応じて７つの段階にわけ、それぞれの時期に行う教育論が整理されています。第１期（７歳）～第４期（24 歳～の青年期）までは具体的で明確な人材育成論が展開されています。モチベーションの形成から基本となる技術を提唱、ＫＰＩを設定し着実に技術を磨いていきます。能学の世界で必要な２つの能力である歌声と姿勢が確立する第４期では、自身は上手であると思い始める時期でもあるようで、初心を忘れずに、慢心することなく、優れた技術をさらに学ぶことの重要さを指導しています。

絶頂期である第５期（34 歳～の壮年期）では、指導される時期は終わり自ら考えてキャリアを選択する時期であることが説かれています。第６期（44 歳～の初老期）になると自身は控え目なわき役に、個人よりもチーム全体のパフォーマンスを上げることが説かれています。そして第７期

（50 歳～の老年期）では、老体ならではの演技で興行（組織）を組み立てることを挙げています。

●日本の課題でもある「教育」を考える

２０２３年２月の例会では致知２月号「何が国を豊かにするのか」をテーマに、日本の課題と対応策を論じました。記事上で藤原正彦さんは、課題の１つに今の教育を挙げられています。国語を徹底的に勉強し、読書することで論理的思考力を養う必要性を説かれています。櫻井よしこさんも一番の問題は教育だと続くわけですが、藤原さんはＩＴ教育や英語教育は近い将来のＡＩに委ねることができる分野であり、その分を国語・読書の教育にあてるべきと意見されています。

私は、小中高と文系教科は苦手で特に国語と社会は嫌いでした。なぜか唯一好きだったのは数学です。小学校４年生のときより母親に強要されたそろばんでしたが、結果的にはこのそろばんの影響が大きかったように感じます。（そろばん→数字に強くなった。そろばん→塾で最初に商工会議所の２級検定に合格したことで自信に繋がった等々。）つまりこのそろばんが、数学好きに繋がり、大学時代のＩＴ研究に繋がり、就職先でのＩＴ部門配属に繋がっていきます。ＩＴ・プログラミングとの相性もよかったようで、この思考は経営センスにも繋がっていきました。

読書は社会人になってよくするようになりました。これにはいくつかの背景があるのですが、その本質はまさに先哲に学び（＝本を読み）未来を拓く（＝課題解決のヒントを探る）です。

数学、ＩＴ教育に学び、国語・読書は社会人になってからというのが私の歩んだ教育施策で前述の藤原さんのご意見とは随分異なるようです。また、（モチベーションなしに）強要されたそろばんがいい未来に繋がっていったということで、世阿弥のモチベーションからスタートする「風姿花伝」とも異なりますね。

●先哲に学び未来を拓く

「風姿花伝」は人材育成に着目した「年来稽古条々」から、観客視点で演じる役どころの技能・テクニックを説く「物学条々」、舞台成功のための「問答条々」、能学の歴史や魅力、成功に導く法則等続きます。まさにビジネス書です。自己啓発書、マーケティングやコーチング、様々な見方もできます。いろんなブースに配列されていることも理解できました。

多くの娯楽がある現代において能楽を楽しむ人はかなり減少していると思いますが、アマテラスの時代に遡る起源や、重要な「幽玄」表現等説かれている内容から能楽への非常に大きな興味を持ちました。「風姿花伝」の全編完結は１４１８年です。この内容の観点でまずは能学視聴にチャレンジです。人材育成、後継者育成、事業形成の面で現代の能学にどう繋がっているのか確認し、私の今後の成長局面を描きたいと思います。おそらく理解するのは困難かと思われますが。